

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 26 日 (2019.12.26)

【公表番号】特表 2018-536897 (P2018-536897A)

【公表日】平成 30 年 12 月 13 日 (2018.12.13)

【年通号数】公開・登録公報 2018-048

【出願番号】特願 2018-525390 (P2018-525390)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

B 3 2 B 7/023 (2019.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

B 3 2 B 7/02 1 0 3

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 14 日 (2019.11.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光学干渉によって光を反射及び透過するマイクロ層のただ 1 つのパケットを有する反射型偏光子であって、前記マイクロ層は、第 1 の通過軸、第 1 のブロック軸、並びに前記第 1 の通過軸及び前記第 1 のブロック軸と垂直な第 1 の厚さ軸を規定するように構成されている、反射型偏光子と、

第 2 の通過軸及び第 2 のブロック軸を有する吸収型偏光子であって、前記吸収型偏光子は前記反射型偏光子に、それらの間に空気間隙を有することなく、前記第 1 の通過軸及び前記第 2 の通過軸が実質的に整列するように取り付けられている、吸収型偏光子と、

を含む積層体であって、

マイクロ層の前記パケットが、交互になった第 1 のマイクロ層及び第 2 のマイクロ層を含み、前記第 1 のマイクロ層は 2 軸複屈折性であり、

前記反射型偏光子が、単独で、前記第 1 の通過軸及び前記第 1 の厚さ軸を含む基準面内で 60 度の極角で入射する p 偏光に対する分光透過率によって特徴付けられ、

(a) 前記分光透過率は、450 ~ 700 nm の少なくとも一部の波長に対して 70 % ~ 90 % の範囲内の値を有し、

(b) 400 ~ 700 nm の波長範囲にわたる高周波スペクトル変動性が 0.08 未満であり、高周波スペクトル変動性が  $a_0 + a_1 + a_2^2 + a_3^3$  の形のベストフィット曲線に対する前記分光透過率の標準偏差である、

積層体。

【請求項 2】

光拡散層又は光拡散構造体が、前記反射型偏光子と前記吸収型偏光子との間に配置されていない、請求項 1 に記載の積層体。

【請求項 3】

前記積層体が、光拡散層又は光拡散構造体を全く有しない、請求項 1 に記載の積層体。

【請求項 4】

前記反射型偏光子と前記吸収型偏光子との間に配置された光拡散層又は光拡散構造体を更に含み、前記光拡散層又は光拡散構造体は30%未満のヘイズを有する、請求項1に記載の積層体。

【請求項5】

前記積層体が、ガラス層を更に含み、前記吸収型偏光子が、前記積層体内において前記反射型偏光子と前記ガラス層との間に配置されている、請求項1に記載の積層体。

【請求項6】

前記ガラス層が、液晶ディスプレイ(LCD)パネルの一部である、請求項5に記載の積層体。

【請求項7】

400～700nmの前記波長範囲にわたるが、0.05未満である、請求項1に記載の積層体。

【請求項8】

400～700nmの前記波長範囲にわたるが、少なくとも0.01である、請求項7に記載の積層体。

【請求項9】

前記基準面内で60度の極角で入射するp偏光に対する前記分光透過率が、400～500nmの波長範囲全体にわたって90%未満である、請求項1に記載の積層体。

【請求項10】

前記反射型偏光子が、50ミクロン未満の物理的厚さを有する、請求項1に記載の積層体。